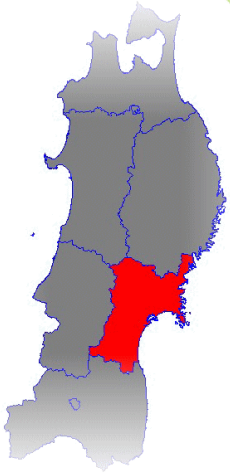
東日本大震災　ＭＳＷ災害支援ニュース

平成 23 年 10 月 13 日
第 1 巻（第 22 号）



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20　四谷ヂンゴビル 2F
災害対策本部　(03) 3351-5038　アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp

＜目次＞

1．災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2．会議の報告及び今後の会議の予定
3．石巻・現地情報
4．仮設住宅における医療福祉相談会の報告
5．現地支援活動報告①②③④⑤
6．現地・事務所ボランティアの感想文

1．災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い

10 月は、仮設住宅の支援が中心になります。
週末は仮設住宅での相談会の開催も予定されており、金土日で参加できる方が必要です。
現地で活動できるボランティアを多く募集いたします。
ぜひご検討ください。

10 月のボランティアカレンダー

（10 月 13 日現在）

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1[Sat]	1	×	11[Tue]	2	3	21[Fri]	2	4
2[Sun]	休	×	12[Wed]	1	○	22[Sat]	2	4
3[Mon]	1	×	13[Thu]	○	○	23[Sun]	休	4
4[Tue]	3	×	14[Fri]	1	○	24[Mon]	2	3
5[Wed]	1	1	15[Sat]	2	1	25[Tue]	1	4
6[Thu]	1	1	16[Sun]	休	1	26[Wed]	2	4
7[Fri]	2	2	17[Mon]	1	2	27[Thu]	1	4
8[Sat]	3	3	18[Tue]	1	4	28[Fri]	1	4
9[Sun]	休	2	19[Wed]	○	4	29[Sat]	2	4
10[Mon]	1	2	20[Thu]	2	4	30[Sun]	休	4
						31[Mon]	2	3

＊数字は必要な人数・○は足りていることを表す。
現地は 10 月 5 日から活動です。

① 支援活動協力員登録人数（ 10 月 13 日（木） 現在 ）

・ 現地支援活動協力員 ： 175 名

・ 事務所支援活動協力員 ： 92 名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

災害対策本部（03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp） 平日・土・祝 10～17 時

※メールでご連絡の際は、件名に「(現地）または（事務所）災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。当会ホームページに現地ボランティア応募フォーマットが掲載されています。

② 現地支援活動について

宮城県大崎市古川のマンションが活動拠点となります。

平日１日 3～4 名体制 週末（金曜日～月曜日） １日 4～5 名体制を予定しています。

・引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中 3 日以上の活動をお願いします。

毎週金曜日に災害対策本部副部長が現地入りし、統括をしていく予定です。

③ 事務所支援活動について

活動日程 ： 月～土、祝日 の 10 時～17 時 ※半日での参加も可能です

活動内容 ： 現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理

１ 日 4 名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、事務所協力員は交通費 1200 円上限とさせていただきます。

④ 寄付金の振込口座：郵便振込口座

資金が底をつきつつあります。皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義 ： 日本ＭＳＷ協会災害支援金

口座番号 ： ００１００－１－８９５１５

支 店 名 ： ○一九（ゼロイチキユウ）店（０１９）

口座種別 ： 当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 ： 当座預金 支店 ：○一九(読み方:ぜろいちきゅう)店

口座番号 ： ８９５１５

備 考 ： お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

＊寄付の使途については、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。

⑤ 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は災害対策本部までご連絡ください。

２．災害対策会議の予定

日　時　：　2011 年 10 月 25 日（ 火 ） 19 時～21 時

場　所　：　日本医療社会福祉協会　会議室

申込み　：　不要（直接会場へお越し下さい）

３．石巻・現地情報

① 石巻での活動内容　　※状況によって内容が変わります

- 仮設住宅の巡回及び入居者の相談支援（週末に相談会を開催）
- 遊楽館を退所した方のフォローアップ
- 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- 福祉関係職種との連携と協働（カンファレンス）
- 経過サマリー作成業務
- 在宅医療を担う医療機関との連携
- グループホーム的仮設住宅での支援

② 宿泊場所

5 月 23 日より、2LDK のマンションを宿泊場所として使用しています。

＊JR 東北新幹線　陸羽東線　古川駅より徒歩約 9 分

③ 現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を 1 台貸与していただいています（保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています）。

現地ボランティアの皆様の足としてご利用いただけます。

詳細とお願いは、次の通りです。

- 車種　トヨタ「イスト」　ナンバー「野田　501 ち　3967」　銀色
- 利用される場合には、安全運転はもちろんですが、車の調子の確認、ガソリンの補給（給油したら協会に請求してください）、および鍵の管理をお願いします。
- 駐車違反・盗難等に注意してください。

④ 携帯電話

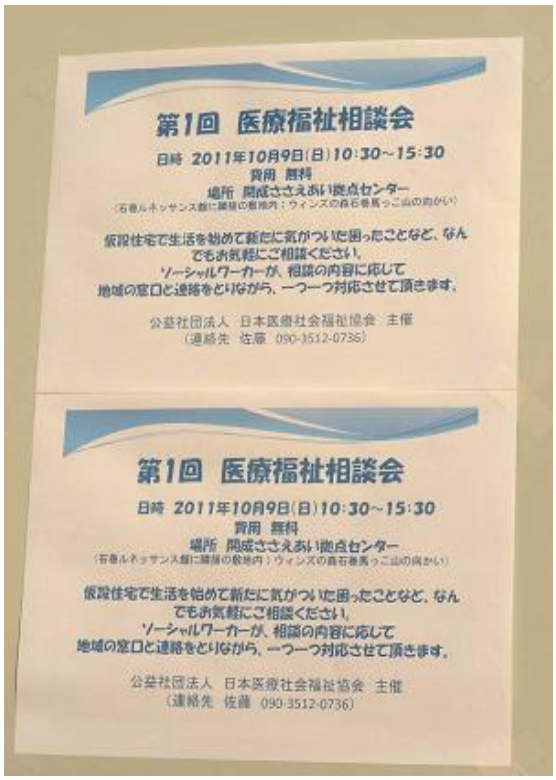
ソフトバンク様より、当会へ 20 台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。7 月 1 日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

４．仮設住宅における医療福祉相談会の報告

相談担当者：柳原　美奈子
筒井　万紀子
佐藤　杏

10 月 8 日・9 日に仮設住宅における医療福祉相談会を実施しました。
今回は初回ということもあり、8 日を準備にあて、チラシを 795 戸に配布しました。
相談会来談者は皆、ポスティングしたチラシを持参しており、チラシによる広報効果は高いと思います。
チラシには「仮設住宅で生活を始めて新たに気付いた困ったことなど、なんでもお気軽にご相談ください。相談の内容に応じて地域の窓口と連絡をとりながら、一つ一つ対応させて頂きます。」と記載したため、『住居に関すること』『医療に関すること』『介護に関すること』『就労に関すること』『お金に関すること』『生活全般に関すること』などの相談がありました。

外部からきているＳＷのみの相談会は、「話を聞いてもらって何とかしてもらえるのでは」という住民の期待がありますが、即応が困難であり、住民への効果としては低いと思われます。市・担当者・関係者への確実な連絡方法・対応依頼の確立は急務だと思います。又、今後、相談内容を絞るのか、今後も単独相談会を開催するのか、市立病院Ｎｓの健康相談や包括支援センターとの合同相談会の方法も今後探れると良いと思います。



５．現地支援活動報告①

～遊楽館の支援活動を終え、仮設住宅の支援へ～

草水　美代子（西片医療福祉研究会）

日本医療社会福祉協会は、平成 23 年 4 月 2 日～平成 23 年 9 月 30 日の 182 日間、東日本大震災による石巻市指定福祉避難所「遊楽館」で相談支援活動を行ってきました。遊楽館は、去る平成 23 年 9 月 30 日をもって閉所しました。会員の皆様に現地責任者としてご報告申し上げます。

遊楽館での支援は、石巻市立病院の医療ソーシャルワーカーの後方支援として毎日平均 4 名から 5 名体制を目指して行っていました。そんな中、市役所の人事異動により、7 月 13 日からは、遊楽館の相談部門は、市職員が欠員となりました。日本医療社会福祉協会は、石巻市より過去 3 カ月の実績を評価していただき、欠員の 1 名分の医療ソーシャルワーカー業務を委託されました。その後は、活動員 5 人のうちの 1 人は、市役所の避難所のソーシャルワーカーとして活動を行ってまいりました。

9 月 30 日は、笹岡副部長、佐藤氏、一原氏、趙氏、草水で、遊楽館に残った 3 人の方の退所を見届け、閉所しました。石巻市の関係者の方々、共に歩んだ多くの災害支援団体の皆様、協会理事の皆さん、事務所および現地の活動ボランティアの皆さん、この活動に対しご賛同いただきご寄付やご支援をいただいた方々の支えがあって、ここまでたどり着けたと感謝申し上げます。

同日、笹岡副部長とともに市役所へ出向きましたところ、さらに、新たな事業委託の打診を受けました。グループホーム的仮設住宅運営の委託です。石巻市から、遊楽館の支援活動に対する一定の評価をいただいたことを誇りに思います。

この仮設住宅は、阪神大震災の体験を受け、孤独死や高齢者のリスクを回避する目的で新たに設けられたケアの要素を包含した仮設住宅です。計画に携わった石巻市の職員の方のご説明では、グループホーム的仮設住宅は、硬直化している現行制度の限界を補うことや、満たされていない生活ニーズの充足をし、自立支援に役立てたいということでした。宮城県内では、南三陸町で実施しているそうです。（仮設住宅の内覧写真は、前回のニュースレターに掲載済みですのでご覧ください。）

さて、なぜ、日本医療社会福祉協会なのかという問いが浮かびます。本来、外部から行う災害支援は、現地の後方支援であるべきであり、この仮設住宅の運営に関しては、地元の法人への委託が妥当だと考えます。当然、市役所としては現地の社会福祉法人等への委託を検討したそうです。しかし、日本医療社会福祉協会への委託打診の背景には、次の事情があったようです。現地の多くの社会福祉等にかかわる法人は、既に災害支援に関する事業や従来の事業展開をしており、被災による業務の立て直しで精一杯であり、余力がないということでした。このような現地のマンパワー不足という現状を踏まえると、いずれは、地元の社会福祉法人等に委ねるとしても、今は、受託する方向で考えることは間違っていないと思います。

受託するということは、並大抵のことではありません。過去 6 カ月間を振り返ってみても、人とお金のやりくりに翻弄された事実があります。しかし、その条件をクリアすれば、遊楽館の活動中に形成した関係機関とのネットワークや蓄積した現地の情報をもとに、仮設住宅での支援活動を展開する実力は十分蓄えていると思います。課題は、長期戦に備えた、現地ボランティア活動を支える組織体制の整備だと考えます。長期戦に備え、前向きな議論と創意工夫を期待します。

黄金の穂波を忘れない　　遊楽館を後にして～

武山　ゆかり　（東京都医療社会事業協会）

3 回目の遊楽館は、いよいよ全館撤収を目前の 9 月 25 日～29 日までの日々を、残られた 13 人の方と、そして最後はほんの数人の方との「お別れ前夜」を経験する支援でした。

かつて、スタッフもふくめると 200 人以上が生活していたアリーナが、各コーナーに励ましの手紙や入所者の作られた折り紙やカードで賑やかなほかは、大きな空間を見せてひっそりしてしまいました。暑くて涼みに出た外の洗濯コーナーや喫煙所も、ひんやりとした空気に、虫の声が淋しげです。夏は緑だった中庭の楓が、赤く色づき始めていました。

初回は、まだＳＷが津波により閉鎖された石巻市民病院のＭＳＷ１人のみ、入所者の把握もまだの 3 月末、全国のＭＳＷに早急の支援参加を呼び掛ける「現場から」の生々しい報告。2 回目の 8 月初めは、ベッドを置くには狭かったり、病院や市街地から遠かったりの仮設住宅の決定に困惑する入所者と一緒に、悩んだり、涙したりの支援。そして今回は、仮設への入所準備の毎日でした。入居説明会、鍵の受け取り、場所の確認、そして、そこでやっていけるか？の不安をともにする一連の時間を、市の介護保健課職員やＰＣＡＴの医師、心理士、看護師、ＭＳＷの仲間に相談し、協議しながら進める中で、地域や親族の「絆」を断たれたことの被害の大きさをあらためて実感し、被災地のすべての人々と悔しさや悲しみを共有した毎日でした。

仮設での暮らしに移行後最も頼りにするケアマネさんは、ご自身も被災しながらも、震災以後休みなく避難所を駆け回る日々を送ってきたそうです。また避難所から仮設への入所が増えると新たな生活へのきめ細かな支援、そして 2 年後の仮設閉鎖後の行き先への準備と「見えない先」を探らねばならないこれからを考えると、夜、暗い地震と津波に失われた街を車で走るのと同じ様に、不安と情けなさに前方がかすむという・・・。

仮設の備品が、ひとり暮らしに 4 組の夜具、茶碗類との報告を看護師さんにすれば、「あたしら、みなし仮設で狭いアパートに家族でいるけど、布団も毛布もなーんも貰えなかったからねぇ。寒くなったら出費がかさむわ、流されて何も無いからねぇ。」とつぶやく。かえす言葉もなく「つらいね。」とこちらもつぶやくしかない。

こんな思いを繰り返しながら、外出や仮設への荷物の搬入に、送迎や運搬のボランティアさんと車中で仲良くもなりました。全国から初めての土地に運転の支援に集まり、これも全国から集められた、各施設で使う頻度の少ないため、とりあえず支援に提供された旧式の慣れない車で、地震によるデコボコやマンホールの飛び出した悪路を一日中、休みなく走り回る。夜はプレハブで自炊し、雑魚寝の 1 週間交代。地元の送迎機関のスタッフに教わった農道の近道を教えて仲良くなったオンボロワゴンのペアは福岡と埼玉の障害者施設の職員でした。また、退所後の医療は、水没や地震で機材を失い、診療再開の出来ない開業医や医療機関を助けて、往診専門のクリニックが開設され、仮設を回る体制が動き出し、遊楽館入所中から患者を繋げて診てもらえるようにもなりました。こうした様々なボランティアや機関が有機的に、理解し合って被災者と家族をきめ細かく支える状況が、ここ遊楽館では展開されてきました。スタッフが 1 週間ごとに変わる機関も少なくなく、「同じことを何回も話す、引き継ぎがされていない！」との苦情も入所者から聞かれることもあったが、その都度システムを見直し、申し送りを積み重ねて、入所者にも、スタッフにも信頼される組織として支援を続けられました。その評価は、遊学館閉鎖後の支援をも求められていることに現われ、日本協会震災対策本部から、引続き 10 月からのボランティア募集が提起されています。

石巻駅前のロータリーは、すっかり以前のにぎわいやきれいな外観を取り戻していますが、港や石の森漫画館やその周辺は未だ営業は叶わず、女川町は先日の台風でも被害を受けています。「地震の前は、このスーパーに自転車やタクシーで買い物に行ったのよぉ～！」と教えてくれた高齢者は、市街地から離れた仮設に入所となり、繁華街にはめったに来られないであろうし、もうじき、動きの取れない冬も来ます。経済の復興はまだまだ時間がかかりそうです。遊楽館は、市街地から3，40分、一面田んぼの続く道をひた走った山の上にありますが、稲穂の黄金に実った田には、先日の台風で荒れた様子が目立ちます。「あらー！倒れた稲は早く刈らないと芽が出っちゃうでぇ、按配悪いんだわぁ」と、婆っちゃは言いますが、手が足りないのか稲刈りは進んでいません。日本の食料を、全国のコンビニのおにぎりの棚を支えて来た「宮城のササニシキ」は、塩をかぶった田も含めて元の豊かな実りを取り戻すのは、労力も時間も、大変な状況がありそうです。
こうした産業・経済はじわじわと、被害が忘れられるほどの年月をかけて、健康や命に影響を与えるでしょう。さしあたって、工事完了から2年3カ月と政府広報に書かれた仮設住宅の入居期限は、県の判断で延長出来るものの、薄い壁一枚で、外部や隣室の声も聞こえ、既に雨漏りもしている建物で長くは暮らせず、また新たな転居や別れが予定されています。家族を亡くした入所者に「今は石巻に帰ってきているけど、遠くに嫁いであてにならない娘と思って、普段はケアマネさんやヘルパーさん、ご近所に頼ってね。」とおかしな「絆」を押しつけて、退所後の手配を、安否確認の手はずを二重三重に整えましたが、東京に帰ってからも気にかかっています。復興関連工事で忙しい息子が引き取った両親は、何とか介護に繋がっているけど、狭い二間（ふたま）の仮設住宅で息子さんはゆっくり休めるだろうか？吹きさらしの寒い仮設でこの冬、健康を保てるだろうか？酒量は増えやしまいか？
　電話であれこれ相談した地域の病院ＭＳＷは、5 月以降訪問して歩いた近隣病院のＭＳＷは、そろそろ疲れが出て来ているのではないか？などなど、たくさんの思いを残しながら、夜は真っ暗な田圃の中を、銀河鉄道の様に一直線に横切って走るローカル線に揺られて石巻を後にしました。

参加を検討されている方へのメッセージ

臆せず果敢に新しいことに挑戦して下さい。誠意と基本のＳＷは必ず役に立つと思います。事務的なことも含め仕事はたくさんあります。自分で探してつくる仕事もあります。草水さんの視点や日本協会の立ち位置など、触れることも大きな勉強になります。おそれず行ってみて下さい。あなたのＳＷとしての原点にも匹敵する経験になるでしょう。

要望

宿舎のノートも含め、もっと、リアルな報告の出来るワーカーに、皆さんなって下さい。被災地を見て、胸がつぶれる思いをした人はその思いを仲間に共有して欲しいはず。だったら伝わるように、話したり、ぜひ書かなくては。でないと具体的な案内が少なく若いワーカーは足が踏み出せずにいますし、ベテランワーカーも運転や宿泊への不安があるように聞いています。インフォーメーションがもっとあるといいですね。頑張ってニュースを出して下さい。本部、理事はもっとポイントを押さえた運営をして下さると若い方が力を発揮できるとおもいますし、疲れたワーカーも働くことができます。

５．現地支援活動報告③

加藤　淳（南町田病院）
　場所：石巻遊楽館
　期間：9 月 17 日～9 月 20 日

１．感想

今回初めて現地ボランティアに参加させて頂きました。私が参加した段階での遊学館は、入居者が約 25 人程の状況で、殆どの方々が次の行き先に向けての最終的な段階に入っていました。
関わらせて頂いて強く感じたのが、全国の様々な MSW が、いかに被災者の方々の様々な局面に関わり、苦労してきたかということと、震災から間もない状況から現在に至るまで、いかにリレーの如くバトンタッチを次々とこなしてきたかということです。
私のそのリレーに加わったことによって、どこまで支援にお役に立てたかどうかは、未だに何とも言えません。
しかし、今回の現地ボランティアとして関わったことによって、多くの方々と出会い、大変貴重な経験を得ることが出来ました。今後も私なりに支援に関わらせて頂くことによって、今回の経験を活かしてゆきたいと考えております。また、改めて現地ボランティアにも参加させて頂ければと思っています。
有難うございました。

２．課題

長期的な活動の継続

３．今後参加される方への情報・アドバイス

●現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）
　9 月 16 日新幹線で 20 時半頃に東京駅を出発し、古川駅に 22 時半頃に到着しました。
●現地での移動（実際にとった手段）
　他の参加者が運転される車に同乗させて頂きました。
●事前に得ておくとよい知識
　石巻市のホームページに載っている情報と、ある程度の地理的情報でしょうか。
●現地へ持参する必需品・不要だった物
　石巻市のホームページから情報を印刷して持参したのですが、現地に殆ど資料として揃っていました。

４．参加を検討されている方へのメッセージ

今後も MSW によるリレーを途絶えさせないようにしていかなければならないです。
1 人のでも多くの方が参加して頂ければと思います。

５．現地支援活動報告④

友田　安政・若杉　美千子（横浜市立大学附属病院）
場所：岩手県大槌町社会福祉協議会
期間：9 月 13 日～9 月 16 日

１．感想

現在、避難所での集団生活から仮設住宅での生活へ移行され、環境的には豊かになったもののコミュニティが崩壊し、人の目が届きにくくなっている現状がある。そのため、高齢者世帯、障害者世帯、独居世帯に対して、生活支援相談員（以下、相談員）が見守りや声掛けをし、世帯の生活実態を把握する活動は、重要な役割を担っていると感じた。地元民である相談員自身も壮絶な被災体験をし、共に復興に向けて歩んできた経験がある。相談員と共に戸口訪問した際に、住民と方言でコミュニケーションを取り、津波の被害前の住宅やよく利用していたお店のこと、避難所での生活のこと等の話をしている姿を見て、地元民だからこそ心を開けたり、気づける点があるのだと感じた。外部からの支援にのみ頼るのではなく、住民同士の繋がりを強化させ、相互に支え合う関係を作っていくことが理想的だと思った。

ただし、相談員の多くは、社会福祉の専門職ではなく、相談業務の経験もない。訪問時に「引っかかり」を感じても、それに対してどう対処すべきか分からず不安を感じていた。具体例としては、「関節炎があるため仮設住宅玄関のドアノブが回せない」「入浴をさせたいが、仮設住宅の浴槽では介助が大変」「睡眠薬を処方されているが眠れない」「物忘れ、頭痛、めまいの症状がある」といった福祉、介護、医療に関する心配事に対し、解決策や確認すべき事項が分からず、悩んでいた。そのため、我々が自助具を案内したり、訪問入浴やデイサービスの利用方法を提案したり、薬の作用を確認したり、保健師らと連携を取り専門医の受診を勧める等の助言をすることで相談員をバックアップした。ボランティア活動を通じ、ソーシャルワーカーとしての専門的知識・技術、相談員のスキルアップを図る必要性を認識した。

未曾有の大地震から半年が経過し、相談員や住民から「被災当初と比べて、孤独感、喪失感、絶望感を抱く人が増加している」と聞いた。これから東北地方は、寒さが厳しくなり今以上に外出の機会が減少し、更に住民同士のコミュニケーションが希薄になる。そのため、今後は更にこころのケアを重視し、支援を継続する必要性を感じた。

２．課題

今後の長期に渡る被災地支援に関して、生活支援相談員が問題を抱え込まずに適切な対応ができるよう、社会福祉の専門職がバックアップし、自ら成長してもらえるような支援が必要。

３．今後参加される方への情報・アドバイス

●現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）
（新幹線にて）東京駅 15：28 発－盛岡駅 18：16 着
（レンタカーにて）盛岡駅 18：30 発⇒釜石市内のホテル 22：30 着
●現地での移動（実際にとった手段）
（レンタカーにて）釜石市内のホテル 7：45 発⇒大槌町災害ボランティアセンター8：15 着
●事前に得ておくとよい知識
道路状況の把握
●現地へ持参する必需品・不要だった物
【必需品】地図、ガイドブック、筆記用具、職員証、防寒具、積極性、協調性

４．参加を検討されている方へのメッセージ

現地の相談員・被災者の方は支援を求めています。日々の業務を生かして、ぜひ現地で支援をしてきてください。

５．現地支援活動報告⑤

東　妙香（初台リハビリテーション病院）
　場所：石巻遊楽館
　期間：9 月 25 日～9 月 28 日

１．感想

3 回目の活動は避難所閉鎖に向けての退所支援が主でした。継続して関わることができない中で、「繋げる」ということを考えながら支援をしました。本来は、日頃の病院業務の中でも退院が終結ではなく、その後の生活に目を向け、地域に「繋げる」ことを考えて支援することが必要なはずなのに、意識できていない自分に気づいたりしました。

今回の活動は、協会の理事の方たちと一緒に出来たので、とても安心感がありました。先輩ＳＷさんの記録を読むことができることも自分にとってとても勉強になりました。

「誰かのために」支援をしに行ったつもりでしたが、結果的には自分が多くのものを得たように思います。

２．課題

現地の地理に疎いこと。

３．今後参加される方への情報・アドバイス

●現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）
　往路：東京→古川
　復路：石巻イオン→（高速バス 70 分　片道 800 円　予約不要）→仙台→東京
●現地での移動（実際にとった手段）
　車の運転ができないので、いつもどなたかの運転の車に乗せて頂いていました。
●事前に得ておくとよい知識
　石巻の地理（大まかに）。
　理想は、仮設の位置が分かる石巻市の地図をボランティアに行かれる方に事前資料として渡せると親切だと思います。石巻市のホームページに載っている仮設の地図は、地区別に分かれた地図なので、その地区が石巻市のどのあたりに位置するかがイメージできないと分かりにくいのかな、と思ったりします。

４．参加を検討されている方へのメッセージ

あまり気負わずに参加してみてはどうでしょうか？多くのＳＷと知り合えて、楽しいですよ。

６．現地・事務所ボランティア感想文

現地・事務所ボランティアの思いや業務のことなど・・・一読ください。

現地ボランティア

10 月 9 日（日）

柳原（都立東部療育センター）

今回が現地ボランティア、初体験でした。何となく勢いで申し込んでしまったものの、復興に向けての長い時間の流れの中に途中から急にしゃしゃり出ていくようで正直気が引けたし、内心はドキドキでした。が、現地責任者の方が適切に指示して下さり、デビューしたての私でも無事ボランティアを終えることが出来ました。現地責任者の方のご苦労は如何ばかりかとお察し致しますが感謝、感謝です。現地の流れを乱さぬよう、現地責任者の指示の下、「点」として関わることが出来ていたのであれば幸いです。

10 月 10 日（月）

筒井（戸塚共立第２病院）

最初は、私のような経験の浅い者でも、現地ボランティアに参加していいのかな？など不安はありましたが、実際に参加してみて、一緒に参加された方の適切なフォローもあり、なんとかやりきることが出来ました。また、現地の方々のお話を直接伺うことも出来るなど本当に貴重な経験をさせて頂くことが出来ました。今後もこのような機会があればまた是非参加していきたいと思います。

事務所ボランティア

10 月 4 日（火）

大野（我孫子ロイヤルケアセンター）

初めての参加です。ボランティア保険加入の手続きにも行けました。お世話くださった若者の茂田さん、一原さんに感謝です。

一原（自宅）

9 月 30 日に遊楽館閉鎖を見届けて帰ってきました。これから事務所メイン＋現地のお手伝いで参加させていただきます。現地の活動内容がこれから定まってくるので、事務所もそれに合わせてうごいていきたいと思います。

10 月 7 日（金）

田玉（初台リハビリテーション病院）

一原さんが事務所に定期的に来ていただけて大変嬉しく思います。事務所ボランティアの応募もあり、嬉しさ倍増です。

一原（自宅）

今日、現地では今後の活動に関していろいろ動きがあったようで、事務所でそんな雰囲気を感じていました。また 10 月、11 月で現地ボランティアの応募があり、嬉しかったです。

10 月 8 日（土）

中村（初台リハビリテーション病院）

10 月 5 日より現地入りした佐藤さんより日報が届きました。今日から相談会が始まるとのこと。手探りながらも精力的に活動されているご様子に頭が下がる想いです。